

… 雨でも休まず：第135回、第136回 …

### 「若柳・嵐山の森」から

- 活動1：森林整備に注力：8月7日（第一土曜日）
  - \* 森林整備班は、つらい・苦しい／下草刈りの季節
- 活動2：桂川・相模川流域協議会と共に：親子／森林体験講座
  - \* 8月14日（第2土曜日）午前10時、相模湖駅前、弁天島に行く。
  - 15日（第3日曜日）いつもの通り、若柳・嵐山の森。
- ◎ “必ず申込”ボランティア保険等。T&F 03-3411-1636
- 夏場は、雀蜂に気を付ける。黒系統の服装禁止。7月は、足長蜂にやられた。
- 初参加：JR相模湖駅前：9時15分まで。090-7260-8101（緑のダム）
- 服 装：汚れて良い格好、着替え。 爪 足元の滑らない履き物。
- 持 参：保険証の写し。飲料水は絶対…熱射病が怖い。前日夜更かしするな。

### 断固：「水源環境の保全・再生」実践を…。

自然公園課の技官と県森連の担当部長に夫々別々の神奈川の森の現場を案内して貰った。森はもう、待った無しの状況である。森林は、個別の対処療法ではどうにもならないところまで来ている。縦割行政を理由にしている暇はない。総合的な戦略を立て、問題毎の対策を組織的に継続的に縦横につないで果敢に実行しなければならない。

特に、私有林は酷い。それは所有者が問題でなく、林業行政のかじ取りの問題である。高度成長の膨らむ外貨を減らすために有機化学物質を含んだ安い合板など工業製品の輸入材を自由化した付けが森林所有者に押しつけられているのだ。

それに気付いた岡崎前知事が表題の政策を立ち上げ松沢現知事がそれを引き継いだ。県民の殆どが「水源環境税、やむなし」と理解を示しているこの政策は、20年間、1100億円/年 の我が国、初めての大プロジェクトで森林は全ての人々の問題だから行政・県民・学際・業界、一丸となって協働しなければならない。

今こそ県は、県民と協働してこれに取り組まねばならない。「費用：効果チェック」利権の入り込む余地は全くない。そのチェック機能も必要。失敗はできない。

## ● 活動報告1／7月 3日（第一土曜日）：森林整備

梅雨は、何処に行ったのか。森林の荒廃、地球温暖化のせいか。快晴猛暑。26人+遅れて2名参加。

### ○森林整備班：森林境／協力協約D地区の間伐伐採木に目印を付ける作業：選木

と言う。これが案外、案外と言うより悩ましい判断を伴う選択を求められる。丁度良い間隔と弱い木はどれか。これを切って本当に良いかどうか。木にだって命がある。切れば痛みを伴う音がする。我々は、森林整備を業としてやっている訳ではない。森をどういかすかが課題だから、“切る木”に印を付けるのは悩ましい。この森は、10年程前に一時間伐をしている。

今回、2次間伐となる。悩み迷いながら2次間伐の245本ばかりに切る印を付けた。

### ○森の造園班：花が咲き誇っている。森の見事な花園に酔い痴れる。

その森の花園の中で“ダッヂオーブン”とか言う調理方法で「森の造園班」は旨いものを食わせてくれた。その至福を何んと表現しよう。そんな事を知りたければ、森において。



○竹炭釜班：原料となる竹を切りに6人が行った。径10cmもあるであろうか？肉厚の立派な竹を車一杯に積んで帰って来た。

○生態系調査班：精銳／篠田・林・藤島仲間に新しい仲間が増えた。  
大塚さん：美人。参ったなぁ～。

この班の参加が増えそうで…。この日、毎木とか言う木の材積調査。案の定、時間をかなりオーバーして生態系班は帰って来た。何時も、俺いら、心配だらけだが…、余計なお節介か。

\*来客3名：1、上野原町の井田さんが「上野原・森つくりの会」を考えたいと偵察？に来た。

- 2、桂川・相模川流域協議会の倉橋さんが「親子体験：緑のダム体験学校」を8月に我々の森で行いたいと相談に来た。
- 3、宮村仲間（東海大学付属望星高校教諭）が教え子たちに“森林の真実”を教えたいと言うので相談に乗った。

## ● 活動報告2／7月18日(第三曜日)：里山交流

園田隊長の計画は、この日は、「作業は午前中、お昼は流しソーメンで午後は何か楽しい事をやろう」

の計画。んで、土・日・月（朝：満の日）と三連休だし道路が込むからと早目に出たのだが高井戸から高速に乗った途端渋滞。道路表示では33キロ、小仏まで2時間と出てコリヤ・ダメだ。

食材を積んでいるので気は焦るし、車はノロノロ。直近の出口は調布で、調布で降りた良いが、甲州街道もノロノロで途中で電話を入れたのだが、早く行かないとお昼の準備が心配だ。森に着いたのが10時過ぎ。もう、これだけでクタクタ。

・天気予報では35度の快晴無風、カンカン照りにこの日、51人の参加。

- ・手ぐすね引いて待っていた鍋奉行班の相変わらずのテキパキ・テキパキと音のする段取り。
- ・流しソーメン会場作りは、園田隊長指揮の下、炭窯広場のモミの大木の下。作業隊が戻って来た12時には、準備万端。相模湖町の尾形理事が差し入れのお飲み物・取れ立てトマト・キュウリ・手作り味噌などを手に突如、現る。流しソーメンの水は2tタンク、2リッターポリタンク10杯。
- ・先ず、「お飲み物をどうぞ」の声に6ダースの氷で冷やした缶ビールとジュースに喚声が上がる。

“ウメーッ”の声は、嬉しい。「さあ、行くぞ」の掛け声に流しソーメン竹トイに50人が集まる。



森の流しソーメンが、こんなに良いものだったとは…

アレッ、最初にコロコロ、プチトマトとウズラの卵が竹といを転がり流れて来た。「箸でつまめっ」と隊長の無理なご注文。次いで、冷たい水で冷やしたソーメンがズンズン流れ来て汗で帰って来た森仲間の胃袋に収まり身体を冷やす。ソーセージも流れて来た。枝豆も流れて来た。

「おかげも有りまーす」の即席ベニヤ板テーブルの上に「茄子のしそ和え、キュウリのキムチ和え、奈良漬け、わけぎのごま和え、カニ足蒲鉾」、飲むサラダとして“ガスパチョ”

…で何んだ？。何んでもスペイン料理らしくトマトをベースにいろんなものが入っている。ショットと酸っぱ目の不思議な美味しさ。何んと豪華な流しソーメン大会か。

- ・「腹は、十分か。では、午後の作業を始める」の隊長の声に「エー」との反応。「…と言うのは嘘、午後の大自己紹介大会を始める。ご指名順に森への想いを語れ」。
- ・何か喋りたい仲間が飛び出し、喋りたくない仲間も喋りだすと止まらない。それがまた、皆んな良いこと言うんだなあ～。日頃、顔と名前だけしか知らないが大いなる人間関係つくりとなった。



大自己紹介大会で大ユーモラスに自分を広報する…白石仲間

こんな楽しい事を仕掛けたのは一体、誰だ？。何んで仕掛けたとの結論を得てこの日の作業を終えた。  
・後日談：シマッタなあ～、行きたかったなあ～、町内会の大掃除大会があったもん… と吉田さん。

## ● 臨時の活動：湘南平塚／七夕祭り：7月2～3～4日

昨年、相模湖町と協賛参加した例の「鋸引き体験・工作教室」を是非、やってくれとの要請を断り切れないで、銀行跡地約300坪ばかりの空き地を利用した祭りバザールの一角・一等地・ド真ん中を占拠して開催。斎藤さん、吉田さん、速水さんが応援に駆け付けてくれた。

やっぱり一番人気となった。と言うより、会場係員や祭り主催者が何度もやってきて鋸引きを楽しむ始末。そんなのを押し退けて女性グループを誘うと最初は恥ずかしげにしているが鋸を手離さぬ人も出てくる。塾帰りのガキどもの集団には、嬉しくてこすった。

その祭りに出演した“モグサ”と言う若手ハンドが鋸引き体験の竹が欲しいと言って来たから「お好きな物をどうぞ」と言ったら一番立派なもので即席に竹太鼓を作って演奏の一部に取り入れてしまった。お礼が出来ないと言うから「森の中であんたらの音楽を聞かせてくれればチャラでいいよ」といったら「嬉しい」とか言って12日、マリンバの竹岡君が打ち合わせに事務所を訪ねて來た。

## ● その他の活動

\*その1、国有林；秦野管理区20林番視察：7月9日

… 手を入れない森・手を入れた森 …

- ・ 何もしなくても汗が滲むこの日、県森連(森林総合連合会)の井手部長の案内で表丹沢の国有林を「森林と都市生活者を直結する活動」を進める倉橋・栗原仲間と視察した。
- ・ 林道沿い丹沢中腹辺りから続く植林の森は、殆ど手が入っていないまま何もしなければ、その先は暗澹たる結末。
- ・ 岡崎前知事が立ち上げ、松沢現知事が引き継いだ「水源環境の保全・再生策」は、何とかして軌道に乗せねばならない。手を入れている森は、有るには有るが印象としては、針でつつく程度の広さにしか過ぎない。林道各所で道路補修工事をしていたが、森をいかす(麒麟を被る)事に繋らねば何んの意味があろう。



- ・ 神奈川の森は狭いと言うがヤビツ峠展望台から見渡す丹沢山塊は、塔の岳・檜洞丸と峰から峰に連なる。この38%：3万2千haが植林の杉・檜。木材の自給率が18%と切ろうとしている。神奈川では、蓄積量30万m<sup>3</sup>/年に対し抜出手4,5千m<sup>3</sup>/年と1,5%。全国最悪。全県民が立ち上がりねば

解決出来ない。

- ・帰路、県内で最も元気な愛川森林組合を訪ねた。150年程前に建てた資材倉庫が現役で働いていた。5間横梁の曲がりくねった松材がビクともせず健在でフンドシとか言う奇妙な形の固定鉄がガシリとそれを支えている。平均26年寿命の建て売り住宅し比較して何が真実なのか考え無ければならない。
- ・9m<sup>3</sup>の最新式の乾燥機を見せて貰った。40度低温で18日間を要する。こんな小型では、県産材流通には無理ではあるが、最初の一歩にはなる。ここで面白い話を聞いた。1m<sup>3</sup>の材(40cm幅×4m材2本相当)で200リッター(ドム1分)の水が出ると言う。あの広大な森には、どれだけの水が蓄えて有るのだろう。正しく、森は「緑のダム」。

#### \*その1、黒川先生からご指導を受けている…、F C C 流域材活用班

倉橋・栗原仲間と進める「森林と都市生活者の顔の見える活動・協議会・準備会」

- ・昨年10月に県が情報公開した「水源環境の保全再生政策」に異を唱えた事から唱えた以上は、対策と実践を提言・協働するのが責任で、表題の「森林と都市生活者の顔の見える活動・協議会・準備会」がF C C 流域材活用班を進める倉橋・栗原仲間に自然発的に立上がりつつある。
- ・この二人が昨年1年間、都会の人々を上流の荒れた森の見学行を実施した結果でもある。この準備会は「上流／森林をつくる人々～中流／製材・工務店～下流／建築・都市生活者リーダーたち」で構成している。全国各地で森林をいかすために見捨てられている間伐材で多数の公共建築物を実現しつつ林業システムの再構築に取り組む黒川哲郎さん(東京芸大・建築科・教授)が指導して下さっている。黒川教授は、建築と林業システムの実践リンクで日本建築学会賞も受けている。
- ・どのように進めたら良いか、県にも相談しているが担当部署／林務の斎藤課長・山中技官は、親身に一体となって考えてくれている。きっとよい形となってくるものと希望も膨らむ。ここで“顔の見える活動”と強調した事がミソ。この協議会は、議論は程々にして「結果を出す」事が目的。

#### \* 木質バイオマス熱源勉強会：7月10日

- ・我々の活動に関心を示す神奈川ネットの皆さんが昨年、県科学技術振興課とこれに取り組んだ須藤仲間の話を聞きたいと言って来た。須藤仲間は、技術者でも科学者でもないが昨年、手を挙げて本当のローテクの足で稼ぐ調査を積み上げ奇跡に近い成果を挙げた。NEDO(新エネルギー開発機構)は、今年も全国16団体の一つとして「緑のダム」のこの事業を指定してきた。
- ・須藤仲間の話は、身の回りの事から出発した物だけに誰でも“なるほど”と思わせるもので実現可能を感じさせる。実際のところ、バイオマスとかペレットとか難しい話にせず、木を燃やすエネルギーをどう有効に活用するかだけの話である。私も十数年前に韓国でオンドルを作った事がある。当時、ソウルのチャンミ団地に住んでいたが、団地全体が地域暖房で木質バイオマスが熱源だった。このシステムは至極、簡単な構造で先端技術だと言ってもこんなローテクにこそ活路がある。須藤仲間も石窯を作る技術をもっており、これが当会が「木質バイオマス熱源」に取り組む原点。
- ・吉川さん(大和市)、相良さん(伊勢原市)、三谷さん(海老名市)、岩本さん(相模原市)、千葉さん(川崎市)、仙田さん(鎌倉市)他、熱心な質問責めにも有って30分も時間オーバー。次の話し合いにこの会議室を次のグループに明け渡さねばならぬと追い出された。表に出て、いろんな意見を交換した。その後、交流が始まっている。

## ● 何んと言ったって危険防止対策

情報提供：永田国広

かかり木事故 本年2月27日、65歳男性、奈良県

傾斜30～40度の作業現場でヒノキ林の伐出作業に従事、5名は集材作業に、被災者を含む2名は100m離れた場所で伐木造材作業に従事していた。被災者が伐倒作業中、かかり木が発生したがそのまま放置し、かかり木の前方15mくらいのところで枝払い作業をしていたところ、かかり木が自然落下し、かかり木の先端部分が被災者の頭部を直撃した。

\* 当会は小沼美佐子看護士から、救急指導を受けている。今月から森林整備班には、応急手当て用品一式を携帯して守屋まり子仲間が救急隊員として参加します。が、心の油断、怪我は恥と心得て下さい。

### 甲州道中を利用した庶民や文人

3大名の参勤交替や甲府勤番の役人、お茶壺道中が通行した甲州道中は、また、庶民や文人も盛んに利用した古道です。

文人の代表、松尾芭蕉が数々の名句を残しています。「おひち火事」で深川の庵を焼け出された芭蕉は、谷村の縁者を頼って道中した折、数々の名句を残しています。

小仏峠を詠んだ「ひばりより上にさぶろう峠かな」。野田尻宿近くの雑木林の中にある句碑「あがりては下がり明けては夕ひばり」。そして、「水くらく日のまゝ谷や呼小鳥」と猿橋を詠んでいます。版画の葛飾北斎が描いた「富嶽三十六景」の中の「甲州犬目峠」とだいする素晴らしい作品が有ります。仮名垣魯文が「甲州道中膝栗毛」一冊本を書き、霞江庵翠月が五冊に分けて「甲州道中記」を著しています。

江戸時代後期の浮世絵の安藤広重は「甲斐日記」や「甲州道中記」、「甲州日記」を著し、活字本になっています。彼の作品には、四季の犬目峠、猿橋、大月などが画材になっていますが「甲斐大月原」は、有名です。

身延山には日蓮宗総本山久遠寺があり、往時から参詣する者が多かった。その門前町の身延には数多くの宿坊があり、信徒の宿泊場となり、同時に湯治場となっていました。

靈峰富士山も往時から信仰のために信徒が多く、また、武田信玄が長野善光寺に模して酒折に甲州善光寺を創建しましたが、多くの老若男女が参詣しました。

富士山や身延山に参詣する人達が講を組んで道中する信徒の姿は、けだし甲州道中の風物詩でした。

次回は小原宿と甲陽鎮撫隊について記します。

(文責 中里)

1) 8月7日(第一土曜) 森林整備に注力。

モットー／休まず・無理せず・楽しく、ボチボチと…

そして、沢山のご意見、参加下さい。

2) 8月14日(第二土曜) 親子森林体験

名 称／さがみ湖・森つくりの会(NPO法人緑のダム北相模/森林部会)

15日(第三日曜) 里山交流

事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9 石村

桂川・相模川流域協議会と共に

T & F 03-3411-1636

協働団体／セブン－イレブンみどりの基金

\* HP : <http://www008.u.p.p.s.p-n.e.t.j.p/kita sagami>

支援団体：WWFジャパン、損保ジャパン環境財団、イオン財団、日本財団、住宅生産団体連合会